



センター通信

発行: 逗子文化プラザ市民交流センター(2020年1月1日 vol.113)

NEWS 最新のお知らせ

本年も市民交流センターをよろしくお願いします。

皆でつくる みそづくり

- 日時 2020年2月15日(土)12:00~16:00(受付開始 11:30~)
- 場所 逗子小学校体育館
- 費用 4,000円(味噌約2.5キロ 持ち帰り容器付き)
- 定員 100組(往復ハガキで申込のみ) ※定数を超えた場合は抽選となります。
- 対象年齢 中学生以上(小学生以下は保護者同伴)
- 持ち物 ・エプロンなど 汚れてもよい服装でお越しください。
・樽を持ち帰るための袋をご持参ください。



申込方法/期間 往復ハガキ1枚につき1組/1月4日(土)~20日(月)※当日消印有効



ずしまちクエスト商店街たんけん隊！ 参加者募集！



ふだん、何気なく歩いている商店街。どんなお店があって、どんな人が働いているんだろう？
いろいろなミッションをみんなでクリアして、オリジナルの商店街しんぶんを作ろう。
お店でおみやげをもらえるかも！？

- 日時 2020年2月29日(土) 13:00~17:00
- 場所 市民交流センター / 逗子駅周辺商店街
- 料金 1000円(材料費・保険代)
- 持ち物 筆記用具・飲み物
- 対象 小学2年~5年生
- 定員 先着15名



運営: 辻 義和さん
探究型・プロジェクト
学習型アフタースクール
“まなび舎ポート”代表
<http://bootto.strikingly.com>

お申込み: 2月1日(土)9:00から逗子文化プラザ市民交流センター窓口・電話・FAX・メールで受付
お申込・お問合せ: TEL:046-872-3001 FAX:046-872-3003 E-MAIL: ac-center@zushi-psc.org

市民交流センター利用者懇談会 参加者募集

日時: 2020年2月1日(土) 15:30~17:30
対象: 市民交流センターをご利用の一般市民の方



市民交流センターフェアを振り返って

2019年12月7日(土)

会場：市民交流センター・文化プラザさざなみホール

市民交流センターとさざなみホールをお借りして盛大にとりおこなわれました。あいにくの天気にもかかわらず、会場は熱気に包まれました。数々の逗子の魅力が再発見できた一日でした。

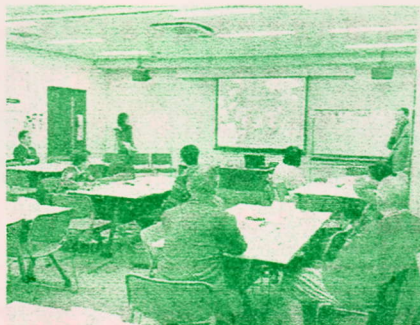
午前の部

● 知っ得ずし Q&A クイズ大会 10:00~12:00 (開場 9:30)

「NPO 法人逗子まちなかアカデミー」によるクイズ大会が開催されました。

逗子ゆかりの方々や商工会会長、そして市長などから逗子についてのバラエティに富んだクイズが出題されました。

大会の最後には正解率に応じて参加者に景品が配られるとともに、「知っ得ずし Q&A 読めばご当地コンシェルジュ」の完成版発行を目指したクラウドファンディングの案内もありました。



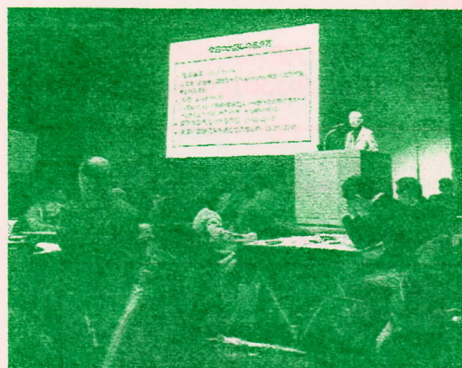
午後の部

パートナーシップミーティング 2019 in 逗子

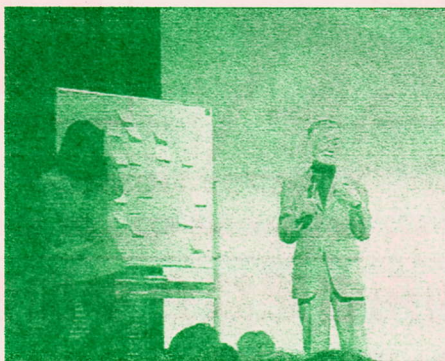
会場：さざなみホール 14:00 ~ 18:30

山岡義典氏による基調講演では〈さまざまな主体が出会い、新しい動きを作り出す〉為に NPO が自立する事の重要性について語られ、続く事例発表では昨年のパートナーシップミーティングでマッチングが成立した三者により〈協働〉の実際が軽快に語られました。

外は凍えるような雨の日でしたが、開場時から満席の会場内では寒さを感じる事はありませんでした。メモを取る音が舞台袖にまで聴こえてきて、参加者一人一人の関心の高さがうかがえました。



山岡義典氏による基調講演の様様



山岡義典氏による Q&A コーナー



「企業と NPO と市民の協働」の事例発表

左：(一社) i-ba 柴田氏
中央：ウスイホーム (株) 系山氏
右：(株) 誠行社石井氏

事例発表の後は連子で活躍する様々な分野の方々によるプレゼンテーションが行われました。それにより会場内の空気は更に熱を帯び、ワークショップへスムーズに繋ぐ事ができました。ワークショップでは参加者がそれぞれの強みや悩みを持ち寄り、対話する事によって新しい〈協働〉を生み出す事を目指しました。



ワークショップの様子



アンドサタデー 珈琲と編集と
庄司 賢吾氏・真帆氏



CAMWACCA 長峰 氏

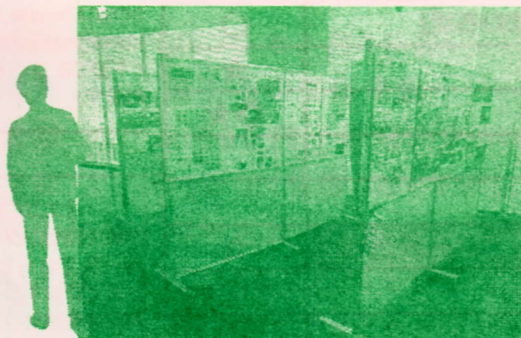


返子市長
(株) キリガヤ代表取締役会長
桐ヶ谷氏

● 市民活動団体 展示パネル展 11月7日～28日(12日休み) 10:00～17:00 ごろ

21 団体の方々にご参加いただきました。

皆さんそれぞれ工夫をこらした作品に仕上り日頃の活動のアピールの場となったのではないのでしょうか。



本気ですか

NPOCLIP vol.50



横浜で NPO やボランティア活動の相談窓口で相談員をしています。組織をつくることについての相談は相変わらず多いのですが、最近は組織継続に向けた運営や経営の悩みが増えてきました。相談時間の半分くらいを相談内容を聞くことに使うのですが、相談内容のポイントが定まらず、悩みの核心を見つけることが難しいことがあります。

当初は助成金の相談と言っていたけれど、実際は組織の資金調達のかたまりに課題があることが分かったり、組織内人材が高齢化してきたので、人材を募集する方法についてどうしたらよいかと悩んでいる団体の相談の場合は、年度の計画や予算、報告や決算をきちんとしておらず、またホームページにもほとんど組織の情報がなく、そもそもどのような組織を目指しているのかの説明を相談者本人にもできなかつたりと、どの団体も自組織の課題の分析に苦労しているように感じています。

本気で組織の継続を考えていると、組織の課題を的確にとらえることができるようになります。そうすれば、相談しなくてもアドバイスを受けなくても改善できる場合が多いのです。

そこで、2020 年のキーワードは、「本気で」にしました。

活動を始めるときは、きっと本気で始めたのではないかと思いますし、誘われて関わっているうちに本気になることもあります。少し長くかかってくると、本気から外れてくる時があります。私自身も惰性でかかわっている活動がないとは言えません。昨年の暮れに、10 年近くもやもやしていた企画の審査があり、精一杯本気で頑張りました。審査会での質疑にも真剣にお答えしました。次年度からかわることになるのですが、本気に勝る企画はないと実感しました。

新しい年号での新しい年が始まりました。「本気」で考える、「本気」で悩む、が課題の解決につながると信じて、もうひと頑張りお付き合いください。(Te)



